

第2回 横浜市磯子区民文化センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和6年8月27日（火）14時～16時
開催場所	磯子区役所6階601会議室
出席者	川添委員（横浜国立大学名誉教授） 三上委員（洋光台連合自治町内会前会長） 箕口委員（東京藝術大学大学院教授） 芳垣委員（東京地方税理士会横浜南支部税理士）
欠席者	菅野委員（磯子区文化協会書道部理事）
開催形態	一部非公開（傍聴者3名）
議 題	1 面接審査 2 審査・選定
決定事項	1 第2回委員会の一部非公開の確認について 第1回委員会で決定したとおり、議題1の面接審査（プレゼンテーション及び質疑応答）は公開とし、議題2の審査・選定は非公開とする。 2 指定候補者について 応募書類審査及び面接審査の結果、次の団体を指定候補者として磯子区長に報告する。 ・指定候補者 チーム杉劇／横浜市芸術文化振興財団／アイコンクス／ニックスサービス 共同事業体
議 事	会議の公開・非公開について、第1回委員会で決定したとおり、面接審査を公開とし、その後の審査・選定は非公開とすることを確認した。 事務局から、応募は1団体で、応募者資格の欠格事項に該当しないことについて報告した。 1 面接審査 応募団体のプレゼンテーション15分間、質疑応答20分間程度で実施。 (1) 応募団体によるプレゼンテーション 事業計画等について説明があった。 (2) 質疑応答 (委 員) 開館から20年経つが、20年間運営を行って来て、他館とは異なる特徴をもつ杉田劇場の名声を高めてきた成果はどのようなものか。 (団 体) 20年間運営を行って来て、地域の声を聴いて区民からアイデアをもらったものを一つ一つ実施してきた。例えば、地域の子供たちと高齢者が一緒に何かできないか、という声に対して、杉劇リコーダーズを立ち上げ、子供と大人と一緒に活動を継続している。子供と大人と一緒に活動する杉劇歌劇団や障害の有無に関わらず参加可能な杉劇にこにこ合唱団も立ち上げている。区民参加を促し、区民と一緒に劇場を作り上げることを20年間行っている。

- (委員) 学校との連携も行っているが、浜中学校の演劇部との連携はあるのか。
- (団体) 浜中学校とも連携は行っている。発表の場として利用してもらうには劇場としては小さいので、練習のときに使ってもらっている。平日の利用枠については、学校との連携を増やしていきたい。
- (委員) 浜中学校の演劇部は有名でレベルも高いと考えている。提案書には書かれていないが、杉田劇場としてそういうところと接触しながら演劇に関してレベルアップしてもらいたい。
- (団体) 学校の部活動には声をかけていきたい。文部科学省の地域文化クラブとして、地域が学校の部活動の受け皿となる取組が行われている。現在、吹奏楽と合唱には声をかけているが、今後演劇にも活動を広げていきたい。
- (委員) 杉田劇場らしさが出るので良い取組だと思う。他区にはない特徴をいかして欲しい。
- (委員) 代表団体を横浜市芸術文化振興財団からチーム杉劇に変更した理由は何か。また、そのことにより財団が担う役割は今後どうなるのか。
- (団体) 杉田劇場は開設当初から指定管理者制度が導入されており、指定管理者制度は株式会社等の民間の会社も含めて幅広い事業者の参入が可能となっているため、指定管理者が変わった際の運営の継続性などが懸念されていた。このため、地域で杉田劇場を見守っていこうという中で「杉田劇場と歩む区民の会」が立ち上がり、それが NPO 法人チーム杉劇に発展してきた。地域のニーズを反映するには運営に関わるべきとのことから、第 3 期からチーム杉劇は指定管理者の一員となっている。地域の杉田劇場になるためには、財団はそろそろ代表団体からサポート体制として参加していく形にシフトしていくべきではないか、という意見が共同事業体の内部にあった。開館 20 年が経過し、変革期を迎えている。財団はサポートにまわることになるが、ノウハウを持っているので教えてもらいながらチーム杉劇は代表団体として運営を行っていきたい。
- (委員) 新規事業を提案している中で、事業費がこれまでと比較して減少しているのはなぜか。また、人件費が 2 千万円ほど増加しているのはなぜか。
- (団体) 提案書には助成金が入っていないため、事業費が減っている。助成金を獲得することで、事業費を増やしていく予定である。人件費については、これまで共同事業体の一部の人件費を委託費としていたが、賃金スライドなどが適用できるよう委託費から人件費に振り替えたため増加している。
- (委員) 20 年間運営を行ってきた中で、やりたくてもできなかったことはあるか。
- (団体) 20 年間の蓄積をデータベースにしていきたいと思っているが、どのよう

に整理していくかは課題だと認識している。町の方からもらったモノもたくさんあり、そのような宝をどのように残し、後世につなげていくのか、他の施設や区役所とも相談しながら方法を考えていきたい。また、地域との関係においては、杉田劇場は杉田にあるため、磯子区内の根岸、岡村、汐見台などとの連携がまだできていない。今後は他の地域にも出て事業を実施していきたい。

(委員) 磯子区も高齢化が進んでおり、これまでと同じようにできないこともあると思うが、どのように対応しようと考えているか。

(団体) 例えば防災関係の研修などは、今年は中学生や高校生に参加してもらえるような工夫をしようと思っている。また、ギャラリー設営時の高所作業や運搬作業は高齢者にとっては難しいため、地域の企業の集まりである事業会から協賛のかわりに人手を募ることなども考えている。受付においても、予約システムの操作説明等を丁寧に行っている。地域の企業や子供たちと高齢者を支えていきたいと思っている。

2 審査・選定

【応募団体の財務状況について】

委員から応募団体の財務状況について説明があり、施設の運営には問題のない財務状況であることが報告された。

【審査結果】

チーム杉劇／横浜市芸術文化振興財団／アイコニクス／ニックスサービス 共同事業体

659点（その他（加減要素）を含む）

659点（その他（加減要素）を除く）

満点：1,020点（その他（加減要素）を含む）

最低基準点：540点

（その他（加減要素）を除く各委員の持ち点 225点×4人＝900点の6割）

最低基準を満たしており、チーム杉劇／横浜市芸術文化振興財団／アイコニクス／ニックスサービス 共同事業体を指定候補者として選定し、磯子区長へ報告することを決定した。

【委員講評】

・20年間運営を続けてきた経験を踏まえて、磯子の文化や杉田劇場の良さを活かす更なる取組を期待したい。

・横浜市の区民文化センターの一つとして建設され、20年間かなりユニークな運営が行われており、地元に対する厚いアプローチもこの団体によって支えられてきている。団体の取組の中では、文化芸術の鑑賞の機会を提供する取組が弱く、市民の

	<p>活動の発表の場の延長が鑑賞と混同してしまっている印象を受ける。全体のバランスの中で鑑賞の機会の提供に劇場の資源をどれだけ割くのか、ということについては再考の余地があり、より徹底的に地元寄り、区民のための劇場に徹するという方向性もあるかと思う。財団は杉田劇場をサポートするだけでなく、市全体の中で杉田劇場を戦略的に管理し、展開していても良いと思う。現状では劇場の目指す姿が少し中途半端に感じ、その部分で提案に少し物足りなさを感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年間管理を行ってきた功績はあるが、これまでやってきた流れの中に少し取組を足していく発想であり、取り立てて新たな工夫は行っていない印象を受けた。人口減少等の社会環境の変化の中で、今後の館の運営にも変化が求められると考える。 ・劇場のアーカイブ機能をもととしていているが、手間もお金もかかるため、全体の運営バランスが崩れてしまわないように区も見守る必要がある。
<p>資 料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員会タイムスケジュール 2 応募団体からの提出書類（1団体） 3 令和4年度 第4期横浜市磯子区民文化センター指定管理者業務評価報告書